

花ごよみ

2024年 250号
1月12日

発行：公財)東京動物園協会 井の頭自然文化園

ようやく冬らしい寒さがやってきましたが、園内では早春の花々が満を持して次々に咲きはじめています。

1

昔は桜ではなく梅？



ウメ (白・紅)

今は“お花見”と言えば桜ですが、奈良時代以前は「梅の花」がお花見の定番でした。また、原産地の中国ではロウバイ・サザンカ・スイセンとならび、早春に開花する香りのよい植物として「雪中四友(せっちゅうしゆう)」と讃えられてきました。



2

香り豊かな冬の花



ロウバイ (蠟梅)

名前の由来は、花の光沢がロウを塗ったようであることやウメと同時期に開花することなどのようですが、クスノキ目に属する植物でウメの仲間ではありません。

3

藁のモンスター



しもよ霜除け

冬の風物詩です。暖かいところで育つ植物ソテツの防寒対策として冬季は藁のコートに身を包みます。頭部の“藁ボッチ”と呼ばれる部位がユニークですね。

4



フサザキスイセン

5



フキノトウ

6



ツバキ (紅荒獅子)

7



ツバキ (白侘助)



最新号や過去の「花ごよみ」をスマートフォンでご覧になりたい方は、右のQRコードより公式HP、「東京ズーネット」にアクセスしてください。

